

今週の富大生

Weekly TOMIDASEI

第22号

医学部 医学科
2年
長野県松本深志高等学校
(長野県)



子どもが好きだから小児科医になろう

進路選択を考えたとき、出身の長野県を出たいという気持ちがありました。その中でも富山大学医学部に3つ上の学年に姉が在籍していることもあり、家族も安心して送り出してくれるということで進学を決めました。医学部に進もうと考えたときに、「子どもが好きだから小児科医になりたい」と思っていました。

小児科訪問サークル「青い鳥」との出会い

入学後に仲良くなった友人と、小児科訪問サークル「青い鳥」に入りました。もともとは小児科に訪問して絵本の読み聞かせをする活動がメインでしたが、コロナ禍を経て、子ども食堂のお手伝いと小児がん支援のレモネード販売という風に活動のフィールドが変わっています。高校までは、「家・学校・部活動・塾」といった限られたコミュニティでの活動が中心でしたが、サークル活動を通して地域社会の大人や子どもに関わることができ、一気に世界が広がりました。

お母さんたちからの感謝で気付く 「誰かのために」

子ども食堂のボランティアでは、料理の提供、後片付けだけではなく、子どもと遊ぶという活動もあります。幼稚園から小学校6年生までの子どもとそのお母さんが集まり、ゆっくりと食事をしたり談笑したりする場を提供しています。

お母さんたちからは「リラックスできる時間をありがと」と感謝されることもあります。人のためになることが出来たと身をもって実感し、やりがいを感じています。

強制されてではなく、「誰かのために」という思いで、参加する学生はこの活動に取り組んでいます。

地域の人との関係を絶やさない努力を

「青い鳥」は1~4年生のメンバーが中心に活動しています。それぞれの企画に担当者がつき、イベント時だけの参加という学生もいます。20人くらいのコアメンバーが中心となり、運営しています。地域の人たちとのつながりを大切に、引き継いでいってほしいです。



活動を通してイメージできた、 これからやりたいこと

入学時に抱いていた小児科医になりたいという思いは変わっていません。しかし、「青い鳥」の活動や救急医療サークルでの活動を通じて、具体的にイメージできることや選択肢が増えてきました。今は小児科の中でも新生児の医療や、救急医療の方面も考えたいと思っています。

後輩へ受け継ぎたい想い

最初は友人に誘われて参加した青い鳥の活動ですが、参加してみて楽しいと感じたことで、現在、活動の代表となりました。

これから「青い鳥」の活動に参加したいと思う後輩にも、高校時代に味わえなかった「楽しい」を感じてもらいたいです。